〔論　文〕

都市同郷団体の現状

——甲信越地方出身者を対象として——

鯵坂　学

目　次

はじめに
1　甲信越地方出身者の同郷会—市町村への調査より—
2　県人会組織と同郷会—東京新潟県人会の事例から—
3　「ふるさと会だより」にみる在京の甲信越地方出身者の同郷諸団体
おわりに

はじめに

この論稿は、筆者が一昨年まとめた東北六県の出身者による都市同郷団体についての研究[1]の続編になるもので、甲信越三県の出身者によってその移住先の大都市圏で形成されている同郷諸団体の現状を検討するものである。

都市同郷団体を対象にしたこの小論の基本的視角は、上記の拙稿で記したように、第一に国際的、国内的な移動や定住のありようを、普遍的で Gesellschaftich な関係からだけでなく、特殊的な sozial•social な要因や、さらに個別的な状況からもとらえようとするものである。第二には、ヒト、モノ、カネ、情報などの移動・流通・伝播による都市化の進展は、その都市自体の社会構造・社会関係・社会的性格・社会的ネットワークを変化させてきたが、それがL・ワース

を代表とするシカゴ学派の見解[2]としてイメージされてきたアーバニズム：都市性・都市的生活様式の一方的展開や浸透、出身地：農村との関係や血縁的関係から切断されたものであるのかどうかについて再検討をおこなおうとするものである。換言すれば、現代の地域社会の動向を総体的都市化としてだけ把握するのではなく、都市と農村の相互浸透あるいは「混住化[3]」の側面も位置付けておきたいのである。

以上のような視点から小論では、諸個人の相互行為・共生関係にみられる生活過程・生活史における生きられた経験を基礎とした場＝故郷［場所性の典型］を同じくする人達によって、移住先の都市で形成されてきた同郷団体にたいして、以下の三つの側面から注目する。つまり、第一には都市－農村関係の相互「浸透」の一側面として、第二には現代都市における第一次的関係に基づく関係・集団の形成の不可避性の側面を例証するものとして、この団体を紹介・検討する。そして、これらの二つの側面を接合する要素の一つとして、この団体が存在しているのではないかという考えを筆者は仮説的にではあるがもっている。第三に、近代・現代の都市社会形成史における、地域住民組織（町内会など）の形成・創生過程へこの組織を正当に位置付ける側面からである。付言すれば、この団体の存在は現代都市におけるエスニカルな諸集団の形成と共鳴しているようにも思える。

以下では、始めに甲信越三県の全ての市役所・町村役場にたいして筆者がおこなったアンケート調査の結果をもとに、市町村やそれより狭域の地域の出身者によって移住先の都市圏で形成されてきた同郷会について、三つの県別に市部と町村部ごとにその現況を紹介する。また新潟県については、特に全県的な範囲の出身者によって形成されている県人会とこの同郷会との関連についても検討を加える。さらに、これらの中で東京圏に形成された同郷諸団体の活動や組織について、毎日新聞東京本社地方部編集の「ふるさと会」についての記事を参照して、この組織のもつ意味を検討してみたい。先の東北地方についで甲信越地方を調査地域として選んだ理由は、上述の毎日新聞東京本社の連載記事「ふるさと会だより」が東北六県とともに甲信越三県の同郷諸団体を扱っており、そこで取りあげられている同郷会の存在

の学術的検証の必要性を感じたためである。

なお、特別の断りがない限り、市町村やそれよりも狭域の地域（例えば旧行政村や自然村などの集落）の出身者が移住した都市で結成している団体を「同郷会」という用語で表し、県レヴェルで形成されている県人会とは区別する。そして同郷会と県人会を総称する用語として「同郷団体」を用い、さらに一定の故郷性とでもいえる地域性をもつ小・中学校（町村部の高等学校を含める）の同窓会を含む用語として同郷諸団体という用語を使う。付言すれば、旧村や旧行政村の範囲域で設立されている同郷会の名称として、◇◇校友会としているものが少数見られ、同窓会と一体化したものとしてここでは同郷会に含めている。

ところで、都市同郷団体についての松本通晴、石原晶家、岡橋秀典、篠原重則らの国内での先行研究や加藤剛、山下晋司、松田素二、和崎春日らの海外における都市―農村関係の研究、および筆者のこれまでの同郷団体についての研究については、すでに拙稿でふれたのでここでは必要最小限にとどめる。

1　甲信越地方出身者の同郷会―市町村への調査より―

かつて一九八四年に、松本通晴は全国の町村役場にたいしてその出身者が移住先の都市で形成している同郷団体（＝同郷会）についての調査をおこない、そこから判明した九九〇の同郷会＝同郷団体（県人会は含まない）にたいして、一九八六年に郵送による調査（以後「全国町村調査」と略することがある）をおこなっている。その一連の調査の結果によると、地域的分布については、西日本では九州地方の出身者によって、東日本では北陸、東北、北海道の出身者によって結成されたものが比較的多いとされている。[4] またこの団体の地域的連関には二つのパターンがみられ、東日本の団体では同郷団体が組織されている都市圏は、道庁・県庁所在の都市と、東京中心の首都圏に集中する傾向を見せ、他

方西日本のそれでは、府庁・県庁所在地の都市と京阪神都市圏、首都圏の三つに集中する傾向がある。[5] 恐らくこれは当該町村からの移住の指向される都市のパターンと移住者の量、移住者の移住先での居住形態（分散か集中かなど）と関係があると思われる。

同郷団体が故郷のどのような地域的範囲の出身者によって結成されているかという構成基盤は、町・村（多くは昭和二九年の町村合併促進法以降にできた「合併町村」と思われる）を基礎にしたものが六〇・八％あるが、集落と答えた団体が一四・五％ある。[6] そして松本はこの集落を基盤としたものが最もよく同郷団体としての特徴をもっている、いわば「原型」と考えていた。

筆者の一九九五年夏に行った東北六県の市町村に対する調査からは青森、宮城、福島の市部、青森、福島の町村部以外は、かなりの高率で市町村のあるいはそれより狭域の地域の出身者によって同郷会が形成されていることがわかった。特に秋田、岩手の市部、山形、秋田、岩手の町村部の出身者によって八、九割以上の率で同郷会が形成されている。町村部だけでなくかなりの市の出身者によって大都市圏で同郷会が組織されていることは、現代の地方都市を考えるうえで重要な示唆をあたえていると思われる。また県別、市部・町村部別による差はあるものの、平均すると二五～二九％の市町村は、その出身者による同郷会が複数存在していると回答している。同郷会がどの都市圏で組織されているかを見てみると、全体としては東京圏に七割強が存在するとしている。しかし、宮城、福島、山形の市部と宮城の町村部出身者によるものは六割前後しか東京圏に存在せず、四～五割が仙台市、盛岡市、山形市などの地方中枢都市や県庁所在都市、最寄りの都市などで同郷会を結成していることが判明した。また同郷会がどの範囲の地域の出身者で結成されているのかをみると、山形、宮城、福島の市部では三～四割程度しか市全域の出身者によって作られておらず、市町村域を越えた範囲のものがかなりある。また、市域の一部地域［町村合併以前の旧町村地域が多いと推測される］の出身者によるものも、岩手、秋田の市部、秋田、山形の町村部に見られるように二～三割存在する。このことは度重な

表1　甲信越3県の市部・町村部有効回答数・率

県　名		新潟	山梨	長野	合計
市	対象自治体数	20	7	17	44
	有効回答数 有効回答率	18 90.0	6 85.7	13 76.5	37 84.1
町村	対象自治体数	92	57	103	252
	有効回答数 有効回答率	77 83.7	50 87.8	83 80.6	210 83.3
合計	対象自治体数	112	64	120	296
	有効回答数 有効回答率	95 84.8	56 87.5	96 80.0	247 83.4

る町村合併にもかかわらず、自然村や旧行政村の地域的社会諸関係が、移住した都市圏にも投影していることを示している。このことは、後述の毎日新聞の「ふるさと会だより」の記事からも伺い知れるところである。

松本による全国町村調査（八四・八六年）と筆者の東北六県の調査をふまえて、甲信越地方出身者の同郷会についての調査結果を見てみよう。調査は東北六県の調査が一段落した一九九五年の十月～十一月に、表1のよ

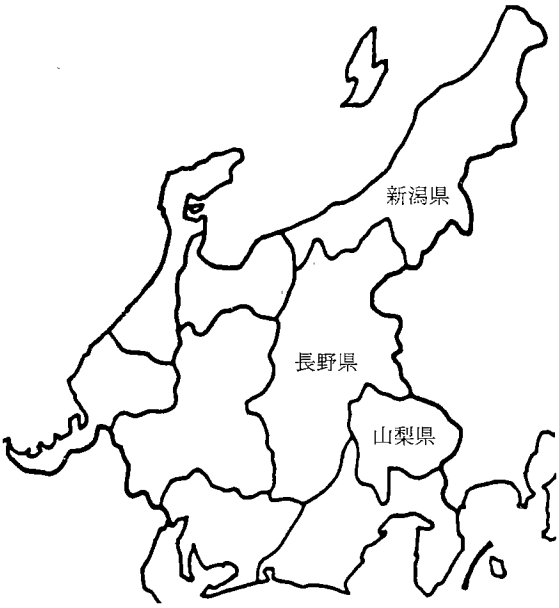

図1

表 2–1　甲信越 3 県の市町村別同郷会の有無（市部）　（単位：%）

	有　り	無　し	把握してない	合　計
新　潟	72.2	22.2	5.6	100
山　梨	50.0	0	50.0	100
長　野	61.5	15.4	23.1	100

表 2–2　甲信越 3 県の市町村別同郷会の有無（町村部）（単位：%）

	有　り	無　し	把握してない	合　計
新　潟	76.6	15.6	7.8	100
山　梨	26.0	36.0	38.0	100
長　野	59.0	25.3	15.7	100

うに甲信越三県（図1）の全ての市町村、合計二九六の自治体に対して郵送法により行われた。各市町村のご協力のおかげで、二四七の市町村からの回答があり、若干のばらつきはあるとはいえ、全体の有効回答率は八三・四%とかなり高率の回答を得ることができた。

調査の結果をみると、回答をよせた甲信越の二四七市町村の内、数にして一四五、率にして五八・七%の市町村が、自市町村出身者により移住先の都市で組織されている同郷会が「有る」として、その存在を把握している。また「有る」としたものを市部・町村部別にみると、市部が六四・八%、町村部が五七・六%となっており、市部の方が若干高いのが特徴である。その理由は、表2—1・2—2、図2—1・2—2に見られるように山梨の町村部の三六%が「ない」とこたえ、「有る」としたのは市部で三都市（五〇%）、町村で一三都市（二六%）であるためである。このように同郷会が「有る」としたものの比率がかなり低い山梨の結果は、これまで調査をおこなった九県のなかで、青森の市部・町村部、宮城の市部とならんで注目される。ただ山梨の場合は他県の場合と違って、市部の五割と町村部の四割弱の自治体が「わからない・把握していない」と回答しているので、実際の同郷会の有無は、後述する新潟県人会を通じた団体把握の例から見ても、再度の調査を待たなければ、最終的な結論を出すことはできない様に思われる。なお、同郷団体

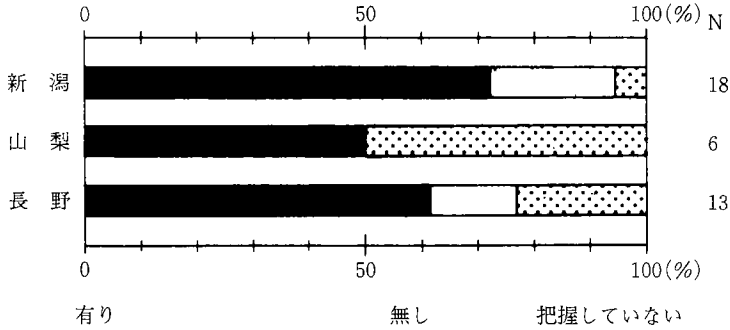

図 2–1　甲信越 3 県の市町村別同郷会の有無（市部）（単位：%）

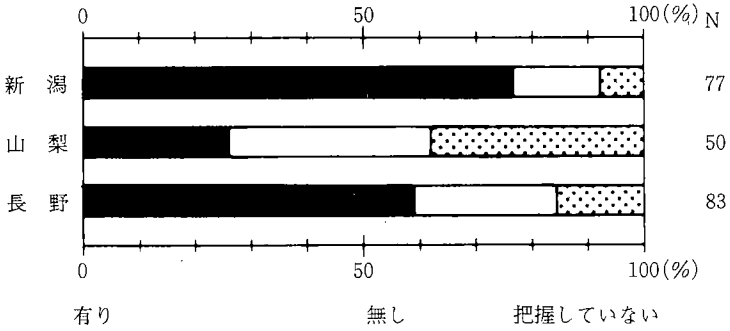

図 2–2　甲信越 3 県の市町村別同郷会の有無（町村部）（単位：%）

に対する自治体側の姿勢も吟味されねばならないであろう。

そして、先の図、表からみると、新潟の市町村は東北の秋田、岩手ほどではないが、市部・町村部とも七割代で、同郷会が「有る」ことがわかる。また長野は、「把握していないが」二割前後あるが、市部・町村部とも六割前後の自治体の出身者が、同郷会を作っていることがわかる。東北六県の場合と同じように県別の差異が目立つが、ここでも多くの地方出身者が移住先の大都市圏あるいは都市で同郷会を結成していることがわかる。なお三つの県庁所在都市では、新潟市は「ない」と答え、甲府市、長野市は「わからない・把握していない」と回答している。また三県の内で一〇万人を超える都市をみると、長岡市は「ない」、松本市、上田市、上越市の各市は「わからない・把握していない」と回答していることは興味深い。東北六県の県庁所在

表 3–1　市町村別団体数の分布（市部）　（単位：%）

	1　つ	2　つ	3　つ	4つ以上	合　計
新　潟	61.5	30.8	0	7.7	100
山　梨	100	0	0	0	100
長　野	75.0	12.5	12.5	0	100

表 3–2　市町村別団体数の分布（町村部）　（単位：%）

	1　つ	2　つ	3　つ	4つ以上	合　計
新　潟	79.7	11.9	1.7	6.7	100
山　梨	92.3	0	7.7	0	100
長　野	75.5	20.5	2.0	2.0	100

都市の場合も、秋田市を除いて「ない」、「把握していない」と回答している。

次いで、当該市町村出身者によって形成されている同郷会が「有る」とした一四五の市町村が把握している同郷会数は一九八団体に上ったが、それらについて検討してみる。これらの同郷会が市町村毎に幾つ結成されているかを見てみると、全体として一つとしたものが七七・九%と多いが、図3—1・3—2と表3—1・3—2のように、新潟と長野の市部および町村部の出身者には二つ以上の同郷会が有るところもかなりある。とくに新潟では四つ以上も「有る」とする市町村が存在することは注目される。これらのありかたは、それぞれの市町村から大都市への移住者の絶対数や移住先の地域での集中・分散の空間的配置、移住者の人間関係やネットワークの有り方から推測できるかもしれない。

これらの同郷会がどの都市（圏）にあるかを一九八の同郷会毎に見てみると、図4—1・4—2と表4—1・4—2のように、三県全体では一五九団体、八〇・三%が東京都を中心とする東京圏にある。新潟では名古屋を中心とした中京圏と県庁所在地の新潟市としたものが、それぞれ四団体、京阪神圏が三団体、北海道が二団体、その他一団体となっており（二団体はNA）、一三・三%が東京圏以外にある。山

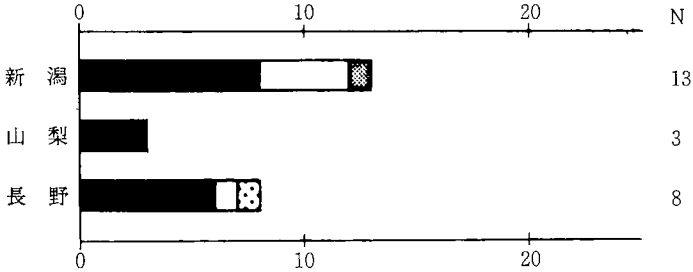

図 3–1　市町村別団体数の分布（市部）（単位：都市数）

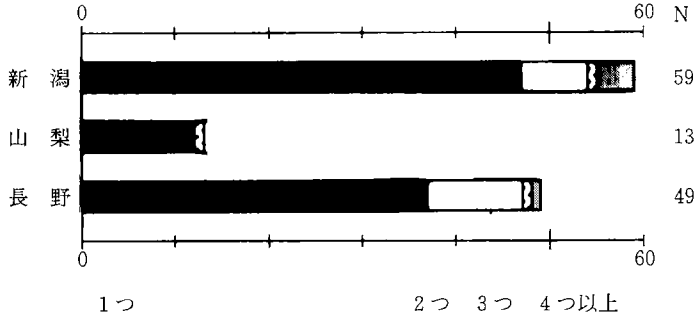

図 3–2　市町村別団体数の分布（町村部）（単位：町村数）

梨では一八団体中一七団体、九四・四％が東京圏にあるとされており、それ以外としては県内の都留市を挙げた一団体だけであり、山梨県は東京圏との繋がりが特に強いと言える。長野では七〇・七％が東京圏で同郷会が結成されているが、中京・東海都市圏に一二、また長野市と松本市に二つずつ、飯山市・駒ヶ根市両市に一つずつ合計八つが県庁所在都市や最寄りの中心都市に、京阪神圏に二つが、その他に二つが結成されている（二団体はＮＡ）。特にこれらの中京都市圏にある同郷会のほとんどは、愛知県に近い伊那地方の町村出身者によるものであり、出身地域と移住地との地域的連関を示唆している。

それらの同郷会が故郷の市町村のどの地域の単位で組織されているか（構成基盤）を検討しておこう。三県全体の平均では、市全域の出身者によるとしているものが、七六・五％、町村域全域としているものが七五・〇％で、市部・町村部の差はほとんど無く、市町村全域とするものが多い。

表 4–1　同郷会がどの都市圏にあるか（市部）（単位：%）

	東京圏	その他	合　計
新　潟	75.0	25.0	100
山　梨	100	0	100
長　野	72.7	27.3	100

表 4–2　同郷会がどの都市圏にあるか（町村部）（単位：%）

	東京圏	その他	N.A	合　計
新　潟	87.1	10.6	2.3	100
山　梨	93.3	6.7	0	100
長　野	70.3	29.7	0	100

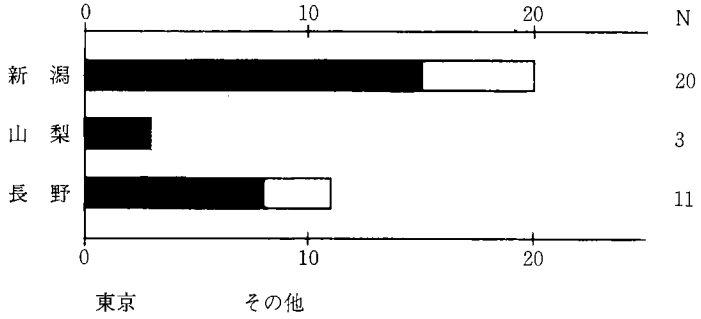

図 4–1　同郷会がどの都市圏にあるか（市部）（単位：団体数）

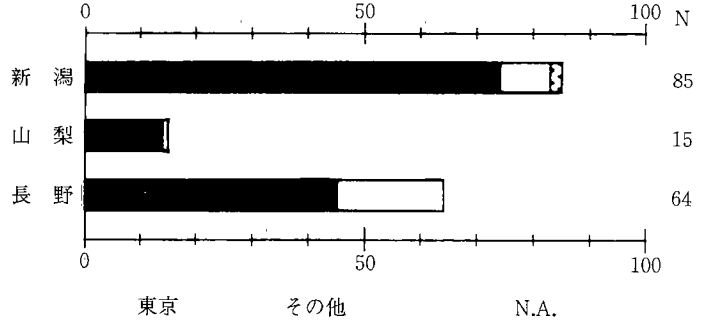

図 4–2　同郷会がどの都市圏にあるか（町村部）（単位：団体数）

しかし表5—1・5—2、図5—1・5—2のように県別では、山梨が市部・町村部とも市町村全域とするものが圧倒的であるのに対して、新潟では市町村域の一部（自治体担当課への問い合わせや毎日新聞の記事などから旧町村や「集落」と考えられる）の出身者によるものがかなりありることは注目される。また「その他」（殆どが市

表 5–1　どの地域の出身者で結成されているか（市部）（単位：%）

	市全域	市域の一部	その他	N.A.	合　計
新　潟	75.0	10.0	10.0	5.0	100
山　梨	100	0	0	0	100
長　野	72.7	18.2	9.1	0	100

表 5–2　どの地域の出身者で結成されているか（町村部）（単位：%）

	町村全域	町村域の一部	その他	N.A.	合　計
新　潟	69.4	21.2	3.5	5.9	100
山　梨	93.3	6.7	0	0	100
長　野	78.1	14.1	1.6	6.2	100

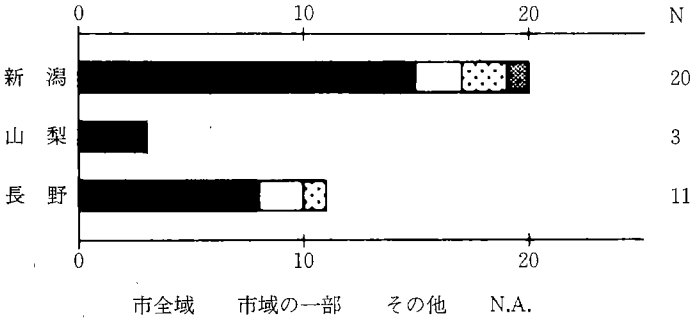

図 5–1　どの地域の出身者で結成されているか（市部）（単位：団体数）

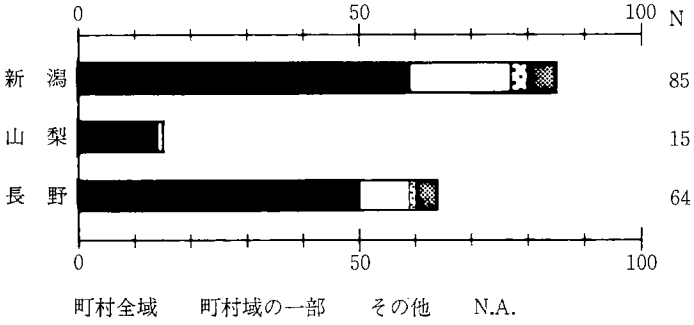

図 5–2　どの地域の出身者で結成されているか（町村部）（単位:団体数）

町村域より広域）の出身者によるものも若干あった。

上記の結果と先の全国町村調査（表6）とを比べると、本調査によるものの方が新潟や長野の町村の場合は「その他」とするものが少なく、町村より狭域の範囲の出身者によって結成されているものが多いといえよう。このようなことは、東北の秋田や山形の町村にもみられたことであるが、その理由についてはこれらの県の町村合併の経緯や、集落の形態等とつき合わせる必要があるように思われる。

以上でこの調査の紹介を終えるが、筆者が十分に甲信越地方の市町村に関する知識を持ち合わせていないことから、説得力のある分析を行い得なかったが、今後の調査によって深めていきたい。

2　県人会組織と同郷会―東京新潟県人会の事例から―

市町村やそれより狭域の出身者によって都市圏で形成されている同郷会にたいして、出身する県が同じである人々によって構成されている同郷的組織として県人会がある。県人会については祖父江孝男によって紹介されているが[7]、筆者も阪神地域の尼崎市において主に西日本を中心とした幾つかの県の出身者による地域県人会についてふれたことがある[8]。また大阪市や川崎市における沖縄出身者による同郷的つながりによる集団形成としての「県人会」の研究が蓄積され始めている[9]。ここでは新潟県出身者によって東京圏に作られてきた県人会について素描し、さらにこの組織と同郷会との連関について述べることにする。

表6　同郷団体の単位

同郷団体の単位 ＼ 同郷団体数・比率	集落	村	町	町村以上	無記入
実　　数	75	124	191	98	30
比　　率（%）	14.5	23.9	36.9	18.9	5.8

出所）松本通晴「都市移住と結節」松本通晴・丸木恵祐編『都市移住の社会学』世界思想社　1994 20頁

東京新潟県人会はその会報『新潟県人』誌刊行五〇〇号記念の『地区県人会・郷人会記念誌』（平成八年七月刊行）によると、その設立は古く明治四三（一九一〇）年に東京信濃町で設立されている。戦後の混乱期を除いて会報をだしており、昭和二九（一九五四）年から『新潟県人』を復刊し、現在はB五版で約四〇頁だてカラー刷のこの会誌を月間で五千部発行してきている。内容はは県人会や地区県人会、郷人会の活動や、出身地の新潟県や地元市町村の状況についてや、同郷人の近況についての記事を掲載している。

また都内の信濃町に土地と建物を持っていたので、昭和三二年に財団法人「東京新潟県人会館」を設立、その後にその土地を売却・換地し、台東区上野一丁目に現在の新潟県人会館を建てている。建物は地上七階建で一階に貸店舗をおき、二・三階に県人会の事務所や会議室、四階以上はホテルにして、それらの収益で財団の運営を行っている。

県人会の役員は正副会長、常務理事、理事、幹事によって構成され、現在の会長は国会議員の小沢辰男氏である。広報委員会や文化委員会、婦人部や青年部など七つの委員会・部会がある。また県人会と（財）県人会館とは表裏一体の組織となっており、県人会の財政は（財）県人会館からの助成金にかなりを負うている。事務局には四人の専従職員がおり、会報の発行、各地区県人会や郷人会との調整連絡、地元新潟県や各自治体との交流・協力、会議の準備、納涼大会や故郷への旅行などイベントの運営、会員の相談などにあたっている。

県人会の構成組織はおおよそ三つの層にわかれており、それは(1)年間四〇〇〇円の（財）東京新潟県人会館の賛助会費をはらう本部会員（約二〇〇〇人）と五万円をおさめる団体会員［地元自治体や出身者の関係する企業など数十］があり、ついで(2)東京圏（埼玉や千葉、神奈川、静岡、栃木などの市も含む）の区や市、それより狭域の地域（たとえば東京都大田区の大森）で組織されている地区県人会が三五団体あり、これは東京新潟県人会の実質的な下位部組織と考えられる。また(3)新潟県の市町村およびそれより狭域の地域の出身者により東京圏で形成されている郷人会＝同郷会が六七組織あり、これも実質的に県人会の下位組織である。これらの地区県人会と郷人会の主な役員は本部会員となって

都市同郷団体の現状

おり、各会の会長は県人会の理事を務めている。さらにこれ以外に二二の地区県人会、一八の郷人会が所謂未加盟の形で、県人会と連絡を持っている。

ところで、この三つの構成組織のメンバーは、本部会員や地区県人会の会員は、「余裕のある人、一家をなした人、ボランティアもできる人」などの層の人が多く、年齢層も比較的高い。郷人会の方はもっとも身近かで、新潟から出て来たばかりの若い人も、小中学校の同窓会の延長のような気分で老若男女がその会合に参加している。[10] なお、いくつかの地区県人会は、その推薦した出身者を当該自治体の市区議会議員に当選させるなど、政治的な影響力をもっている。

ところで最後に、東京新潟県人会の把握している郷人会と、筆者が行った新潟県の市町村調査で分かった同郷会について対照してみた結果についてふれておく。まず同郷会調査で「ない」と回答した新潟市と長岡市にはその一部地域（旧村とおもわれる）の出身者による団体が東京圏で結成されている。また「分からない」と回答した二つの町にその出身者による同郷会があり、調査票を返送していただけなかった七つの市町村の出身者が東京圏で同郷会を組織していることが判明した。そのなかで特に上越市は出身者による四つの同郷会が東京圏に存在していることが分かった。また調査に回答を寄せた市町村でも、四つの市町村で回答により判明した以外の同郷会が存在していることが分かった。これらとは逆に、県人会とは連絡を取っていないあるいは関係をもっていない同郷会も幾つか存在することが明らかにもなった。つまり、県人会と関係をもつ同郷会は多いけれど、地区県人会とは違って、相対的に独自の同郷的組織として同郷会が存在していると思われる。さらに、これらの対照作業から、表2―1・2―2のような市町村への調査によって判明した同郷会よりもより多くの同郷会が、移住した都市圏で結成されていることが推察され、現代日本の都市における同郷団体の普遍的存在を印象づけている。

3　「ふるさと会だより」にみる在京の甲信越地方の同郷諸団体

ここで取り上げる「ふるさと会だより」は、東京を中心とする首都圏にある甲信越地方と東北地方の出身者の同郷諸団体を毎日新聞東京本社地方部が取材し、同社の甲信越三県及び東北六県の各県版に九四年四月よりほぼ毎週連載されて来た記事である。また、これらの記事の要約記事が東京地方版にも掲載されており、同紙の地方部によると、これによって東京に移住した地方出身者とその故郷とをつなぐ絆を読者に提供することを企図しているということであった。ここでは紙数のため、本稿の最後の20～28頁にあるように、これらの記事の九四年四月から同年九月末までの半年間の記事を甲信越地方の分にかぎって要約した「資料：甲信越三県の同郷諸団体」を参照して、これらの諸団体の現状を紹介する。これによって、先述の統計的な資料からでは伺えない同郷会や県人会などの同郷諸団体のリアリティに近づいてみたい。

まず表7にあるように東北六県の例にならって、これらを同郷会、県人会、同窓会、趣味の会、その他の団体に区分してみた。なお、◇◇県人会という名称を使いながらも、実は◇◇市や◇◇町・村の同郷会であるものがかなりあった。それらが組織されている都市地域の範囲を分類してみると、特に県人会に見られることであるが、首都圏全体にまたがるものから

表7　甲信越「ふるさと会」の分類

名　称	出身地域	会員を組織する都市での範囲
同郷会	旧村：「自然村」 旧行政市町村 現市町村 郡・旧藩など	首都圏 東京都・各県
県人会	県レヴェル	区
同窓会	小学校 中学校 高等学校	市町村 地域（団地など）
同好・趣味の会		職場・職種
その他		

表 8　同郷団体の組織されている出身地域の分類記号表

		同郷団体の組織されている出身地域			
		再合併市域	合併市町村域	「行政町村」域	「自然村」域
現行政区域	再合併市（昭和40年以降に合併市町村が再合併				
	合併市町村のまま自治体として現在に至る。（昭和29年町村合併促進法による）				
	行政町村のまま自治体として現在に至る。（明治22年市制・町村制による）				
	「自然村」のまま自治体として現在に至る。（明治初年のムラの範域のまま自治体として現在に至る。）				

現行の市町村域を越えて（郡域や旧藩域）組織されているもの

県人会（地域単位）〈　　〉　同（職域単位）≪　　≫

（注）その他は、殆どが小・中・高等学校の同窓会である

都・県、市区町そして地域（団地など）にいたるまで、様々な範域で組織されている。

次に同郷会を中心に、これらの会が各県の市町村のどの地域の範囲の出身者によって組織（構成基盤）されているのか、また組織されている地域の現在の行政区域はどうなっているのかを指標として、表8のように分類・記号化してみた。というのは、現在の市町村は、明治二二年の市制・町村制に起源をもち、それ以来昭和二八年の町村合併促進法をへて、拡大・再編成されて来たものが多いが、明治初年ころまでの集落＝自然村の範域や行政村の範域が地域生活の上で生きていたり、またそれらの範域のまま町・村として続いているものもあるからである。これらを分類・記号化する際には甲信越三県の地名辞典を参照するとともに、先の市町村へのアンケート調査とも

照合したり、各役場にも問い合わせを行った。

同郷会を中心に検討してみると、全体としては昭和二九年以後の合併市町村の範域で会を組織しているものが多いが、山梨県大泉村のように旧行政村のまま現在も自治体として存在し、その出身者によって同郷会が結成されていたものもある。また新潟県の「東京刈谷田会」や「東京長沢会」、「樽田・中尾の会」のように栃尾市や新井市、東頸城郡の安塚町に合併された後も、昔の集落＝自然村と思われる単位で組織されている会も幾つかある。さらに、新潟県上越市（昭和四六年に高田市と上越市が合併）の旧八千浦村出身者による「関東八千浦会」や、山梨県の西八代郡下部町の旧久那土村出身者による「久那土郷友会」のように以前の行政村の範域で会を結成・運営しているものも一定ある。このように、地域の区分概念としての「自然村」であれ「行政村」であれ、地方からの都市移住者にとっての故郷としての旧村のもっている意味を考えさせるものである。また、新潟県の「東京新潟頸南連合会」のように妙高高原山麓の六つの市町村の出身者で形成しているもののように、市町村より広域で結成されているものもある。

これらの会の発足は設立時期が明らかになっている会の中には、古いもので新潟の「東京・渋谷区県人会」や長野の「八王子県人会」のように大正時代からのものから、高度成長時代に設立され、三〇周年や二〇周年を祝うものもかなりあるが、最近出来たものもある。最近では過疎対策や地域振興、ムラおこし事業の一環として、故郷の市町村側や県側からの働きかけで結成されたものもあるようである。会員数も数十人から三五〇〇世帯人とするものまで様々であるが、数百人程度が多いように思われる。

同郷会は戦前期や高度成長時代には上京して働く出身者の心のより所・相談・互助の場（「無尽会」、「慶弔会」）となり、また出稼ぎ者を励ますことなども目的であったようである。現在の活動の内容は、懇親会をかねた総会、郷土料理を楽しむ会、名簿の作成、会報の発行・配布、故郷への寄付（お金・図書・さくらの苗木など）、故郷の市町村の広報物の配布、故郷の訪問（ツアー）と郷里の人々との交流、故郷の物産の購入などが多い。また総会や新年会には故郷の

芸能が披露されたり、故郷の歌（例えば「信州の国」）が斉唱されたり、懐かしい地酒や食べ物が出され、即売会なども企画され、故郷なまりの会話がなされる。そして故郷の市町村長や農協・商工会関係者、議員などが出席し、挨拶する会もある。毎回講師を呼んで、知見を広める事を心掛けている会もある。活動が活発で参加者が多い会もあれば、高齢化に悩んだり、沈滞ぎみの会もある。

県人会については新潟県人会について検討したが、東京都市圏全体の連合会の存在とともに、都内の区や市単位で重層的に組織されていて、都市の中の「同郷関係」のもつ意味を考えさせられる。また特定の企業の就業者を基盤に会が組織されているものも有り、職域単位でも県人会が組織されていることは注目しておく必要がある。また同窓会については、同郷会とは違った機能をもっていると思われるが、小・中学校のようにメンバーが同郷会とほとんど重なると思われるものもあり、同郷会との関連について検討する必要があろう。

おわりに

以上見てきたように、世界都市東京において大正期・昭和初期と高度成長期、八〇年代半ば以降という三つの時期をやまとして、甲信越地方の出身者によって多くの同郷団体が形成・再形成されてきたという現実は何を意味するのだろうか。筆者にはいまだ、確信のもてる十全な答はないが、とりあえずは拙稿でもふれたように以下のようなことは指摘できるであろう。第一に、現実の都市では都市化過程のなかで、一方でワースの指摘したようなアーバニズムの諸側面が溢れ出ると共に、他方では都市同郷団体や都市親族組織の再組織化、エスニックコミュニティの形成ように、ある種の第一次的接触にもとづく関係や集団が、再編・再形成されつつ一定の機能を果している。第二に、都市同郷諸団体の存在とは、現代日本の都市―農村関係の相互「浸透」の見逃せない一側面・関係である。また第三に、同郷団体の形成

は、近代都市の地域社会形成史のなかに、町内会などの住民組織とともに位置付けられるべきであろう。

注

(1) 鯵坂　学「都市同郷団体の現状—東北地方を事例にして—」広島大学総合科学部『社会文化研究』第二一巻　一～四五頁。

(2) L・ワース（高橋勇悦訳）「生活様式としてのアーバニズム」鈴木　広編『都市化の社会学』誠信書房一九七〇。この論点については、鈴木広「アーバニゼーションの理論的諸問題」鈴木・倉沢・秋元編『都市化の社会学理論』ミネルヴァ書房　一九八七も参照のこと。

(3) 二宮哲雄・中藤康俊・橋本和幸編『混住化社会とコミュニティ』御茶の水書房　一九八五。なお、この著作では混住化を農村集落の方から見ているが、筆者は都市の方からも考えている。

(4) 松本通晴「都市移住と結節」松本・丸木編『都市移住の社会学』世界思想社　一二頁　一九九四。

(5) 松本通晴「都市移住と結節」松本・丸木編前掲書　一四頁。

(6) 松本通晴　前掲論文　二〇頁。

(7) 祖父江孝男『県民性』中央公論社　一九七一。

(8) 鯵坂　学「都市における地方出身者の団体—同郷団体・県人会—」（財）あまがさきみらい協会『TOMORROW』六巻一号　一九九一。

(9) 富山一郎「『沖縄差別』と『同郷人的結合』—戦前期大阪における沖縄出稼民の定着過程の分析—」『ソシオロジ』第三〇巻二号　一九八五　六九～九一頁、桃原一彦「大都市地域社会における『沖縄コミュニティ』の構造分析—東京と川崎における同郷組織の歴史的展開を中心に—」『日本都市社会学会年報　13　現代都市とエスニシティ』一九九五　二三—三八頁。

(10) 県人会関係者からのヒヤリングによる。

付記

この小論をまとめるにあたって、面倒なアンケートに回答を寄せて下さった甲信越地方の市役所・町村役場の皆様にたいして、心からお礼を申し上げます。また、お忙しい中、面接に時間をさいて下さった東京新潟県人会の事務局の皆様にもお礼を申し上げます。さらに資料を提供して下さった毎日新聞東京本社地方部の三木賢治・去石信一両氏をはじめ、同社甲信越三県の支局の方々に深く感謝いたします。

これらの記事の整理・編集や入力、アンケート調査票の発送・整理、集計作業を手伝ってくれた広島大学学生・院生の友安直美、佐藤典子、船越裕介、楢原聡子、石田聖子、同志社大学学生の井関公子さんにも謝意を表します。

資料：甲信越三県の同郷諸団体
［毎日新聞各県版「ふるさと会だより」94年4～9月掲載分］

県名　会　名	メンバー構成・特色	行事・活動内容等
〈新潟〉		毎月第2土曜日のカラオケ同好会「おけさ会」が女性に人気.（「おけさ会」は会存続の危機時に結成.）
◆〈足立区県人会〉		郷土料理づくしの納涼大会
◆〈東京新潟県人会〉		「田中元総理をしのぶ会」予定．郷里の祭り 「中之島・見附今町大凧合戦」に会の名入り凧が参戦.（見学ツアーも実施） 東京新潟県人会館でビデオ観賞会 「クラブ旅」を発足．メンバー約30人 納涼大会（一般メンバー参加の最大行事，毎年約600人参加．各郷人会，町人会会員が踊りや歌を披露．会場では奥阿賀地域振興協議会が故郷の物産を販売）．年2回の総会はふるさと会の役員が対象. バス旅行計画.（会の年間4大行事のひとつ，毎年約240人が参加）
◆在京関川村人会	首都圏で活躍する岩船郡関川村出身者	総会には会員や村三役ら約150人が出席. 村の桜の植樹に協力（募金）の決定と村内の下関集落の人々までも交えての懇親会
◆関東羽茂会	佐渡郡羽茂町の出身者	故郷の町の広報紙に会員が投稿する欄.（町側からの提案による．東京での近況報告やふるさとへの提言.） 羽茂町の過疎化に歯止めをかけるため若い会員らにUターンを呼びかけている．計画として，羽茂農業に出掛け地元の人との交流会を開催，過疎対策を相談．東京で故郷と東京の青年が焼肉パーティを開き，Uターンを進める. 地元の町民有志と町の活性化を考える「ふるさと交流会」を開催．今年初めて地元で開催，約100人が出席.
◆東京新潟県人会・刈谷田会		忘れられた方言，失われた行事をまとめた本『東谷村の習わしあれこれ』の出版.
◆〈埼玉県・川口新潟県人会〉		毎週水曜日に公民館でカラオケ教室. 総会.（プログラムなき演芸会，約75人の参加者）
◆〈川崎市幸区新潟県人会〉		新潟県津川町と川崎市の友好都市提携をめざす.「実のふるさと第二のふるさとの手を結ぼう」 郷土物産の一括購入21年目. 故郷訪問ツアーの計画.（2年置き，今年で11回目．県内各地をめぐる．会が参加費の一部を補助.）
◆東京上越会	上越市	上越会会長が主催する集まり「くびきうまいものを食べる会」8割が会員以外の参加. 上越市の作った「ふるさとカレンダー」を会員に送付.（カレンダーの製作は1986年から青年会議所，昨年からは市が製作．毎年約300部を市から同会へ送ってもらい，各会員に配布.）総会
◆〈東京新宿新潟会〉	設立42年目	親睦と高齢化した会員の精神的つながりのために初の会報の発行，継続予定.

県名　会　名	メンバー構成・特色	行事・活動内容等
		様々な行事の企画．（ツアー，会報，目の不自由な人のリサイタルへの招待．）
		新宿御苑で茶会．総会で事業計画．
◆東京堀之内会	北魚沼郡堀之内町．町制60周年を記念して7年前に創立．会員数2300人．	町の伝統行事見学ツアー 総会に県の無形文化財「屋台ばやし」登場
◆東京松之山会	東頸城郡松之山町	松之山町に年3回，コメ作りツアー．（親類がいなくなっても故郷へ帰る機会をつくる） 創立3周年の記念会誌製作．（松之山町の全世帯と総会で配布．製作費はメンバー経営の会社広告で） 創立3周年記念大会（約160人参加．地元からは町長，町議会議員ら30人出席） 一泊二日の郷里訪問バスツアー計画．今年で2回目，会員外の参加もO. K.
◆東京小出会	北魚沼郡小出町	会報が創刊50号（年4回から2回に） 会報51号
◆東京新潟頸南連合会	7年前に妙高山麓の6市町村の出身者が集まって発足	総会には6市町村の代表，県議員ら130人が参加．会場では郷土の特産品を販売．
◆東京白根会	白根市．会員310人	総会の出席率は毎年5割近く．総会というより懇親会，場所も固定している．
◆東京小千谷会	小千谷市．今年で発足40周年	花火見学ツアー． 総会に約40人出席． 会員50人が「小千谷祭り」に参加．帰省した会員約20人と合流し，花火を堪能．
◆東京長沢会		総会出席者は毎回40–50人（都内以外からも）．懇親会
◆〈新潟県人会青年部〉		東京湾クルージングパーティ（普段は県人会活動に縁遠い女性も集まる．会員外もO. K家族連れなど約30人が参加．） アサヒビール茨城工場見学の親睦旅行．（会員以外の参加者も募る．）
◆〈世田谷新潟県人会〉		1952年から懇親旅行実施．（世田谷区遺族連合会と合同で）
◆津南郷会	中魚沼郡津南町	「津南祭り」に合わせての郷土訪問ツアー． 会員の写真家が来年の町制40周年記念のカレンダー作りに取り組んでいる．（カレンダーは町出身者の名前や会社名を印刷して販売，収益はすべて町の育英資金に寄付．）
◆〈東京都大田区新潟県人会〉		「農園緑の会」は茨城県岩間町でシイタケ栽培．春に植え付けたジャガイモを総会でメンバーに配布．
◆〈東京荒川区新潟県人会〉	メンバーの高齢化，平均年齢70才以上	総会参加者の減少．（130人から60人に） 長岡市へのツアー計画
◆県立津川高同窓会関東支部		同窓の集い．キャンプ 会報発行（町おこしの紹介，ふるさとの逸話をつづる論文など）

県名　会　名	メンバー構成・特色	行事・活動内容等
◆〈東京・台東区県人会〉		郷土訪問．（参加者はお年寄が多い）
◆関東八千浦会	1987年にわずか7人で設立	総会に郷里から小・中学校の校長，恩師，町内会長も出席．同小創立20周年で募金
◆東京・小国会	刈羽郡小国町．30代後半の会員の入会も相次いでいる．	総会ではメンバー10人以上が日本舞踊や現代舞踊を披露．地元特産品の即売コーナーを特設．参加者は毎年約400人を越す
◆東京松代会	東頸城郡松代町	町民と会のメンバーをパネリストに「変わりゆくふるさと松代町の将来を考える」と題してシンポジウム開催．
◆えちご巻町会	西蒲原郡巻町出身者の会．町が昨年，広報紙を東京の町出身者に送ろうとしたのがきっかけ．	町の区長を通じ全世帯に，東京に住む親戚知人を問いあわせて約400人分の名簿を整える．準備金をつくり，会の運営方法を検討中．
◆えちご吉田会（仮称）	西蒲原郡吉田町	上野の新潟県人会館で設立準備会．正式スタートまでは町が中心に設立準備．名簿作りのために町内の全世帯にチラシを配布し，関東に住む親類や知人の連絡先を募る．
◆樽田・中尾の会		県人会館に急ごしらえの神社を作り故郷の盆踊り大会を開催．（40代から80代の参加者約30人が輪になる．今年で4回目．参加費無料．郷土料理の持ち寄り，ビールは賽銭で）
◆首都圏ふるさとわしま会	三島郡和島村．	1982年から毎年，故郷での花火大会に同会の名で花火を上げる．
◆十日町会		総会（10/5．毎年約150人参加）地元で毎年開催する「十日町小唄日本一優勝大会」のチャンピオンが歌声を披露．
〈山梨〉		
◆〈山梨県人会連合会〉		連合会オリジナル応援歌「甲斐の炎」作成 総会（5/14） 甲府1泊ふるさと「産業経済視察研修の旅」（県内の最新技術の工場などを見学．今年で13回目．例年50人参加） 「夏休み子どもランドカーニバル」（親が県出身の小学4～6年生と県内の小学生の交流． 八が岳2泊3日．毎年開催，約200人参加） 「県知事と新しい山梨を語る会」開催 月刊機関紙「富士の国」発行．購読者増を目指す．5月号で方言特集．6月号から「新・ふるさと紀行」で故郷市町村の紹介． 県人会事務所で週1回「結婚相談所」開設（地元県民生活センター結婚相談所との連携） 会員証の発行（東京・丸の内「県京京物産観光センター」の観光物産が1割引になるが，利用されていない） 総会の開催場所と企画内容のマンネリ化から来年度総会は別会場で開催．
◆〈県人会連合会青年	5年前に発足	第3回総会・懇親会（約80人参加）

県名　会　名	メンバー構成・特色	行事・活動内容等
部〉	県関係の企業に勤める30～40代の社員中心.	県関係者の講演会を毎年企画
◆〈県人会連合会婦人部〉	青年部と共に発足 現在会員約200人 芸達者な人が多い	総会・懇親会（約140人出席） 県人会連合会での当日受付など裏方役. 毎年1回研修旅行実施.
◆〈県人会日米交流推進実行委員会〉		「ハワイ山梨郷友会を訪ねる旅」30人がホノルルで山梨郷友会70人と懇親会.
◆京浜六郷会	西八代郡六郷町出身者	年1回総会（その後に宴会） 5年に一度故郷に帰省
◆〈立川市県人会〉	結成11年目. 会員数500人	総会（毎年300人出席. 役員100人が自費で購入した景品での福引が目玉） 日帰り旅行. 市町村ごとの支部で「名物ほうとうを食べる会」開催.
◆〈東京・渋谷区県人会〉	創立66年目	同区社会福祉協議会に車椅子2台を寄付. 会員制でなく会員から寄付金で運営. 役員ら20人が信州・諏訪周辺に懇親旅行.
◆〈東京・国分寺市県人会〉	創立1年半（1992.12月結成） 現在会員約300人	故郷温泉旅行の計画（石和温泉）
◆〈東京・練馬区県人会〉		年4回の役員会は「郷土弁」で. 総会（約50人出席）
◆京浜一宮会	東八代郡一宮町出身者	副会長が毎年一宮町のお年寄りを石和温泉に招待. 同町内の小学校にグランドピアノを寄贈. 桜の花見・総会（約40人参加, 御坂町トロン温泉で）桃収穫期には毎年, 同町とタイアップし「日本一の桃賞味会」開催・PR（今年は約280人参加） 屋形船で納涼会（64人参加）
◆東京高根会	北巨摩郡高根町出身者	甲府市での「信玄公祭り」武者行列に参加 発足したばかりの会の合唱団が県人会連合会の総会に向けて練習. 「上の山温泉」一泊旅行（約60人参加） 合唱団が町の「高根いきいき祭り」に参加（祭りには帰省者など1万人参加）
◆〈東京・田無市県人会〉	創立10周年 会長は田無市長	創立10周年記念総会・懇親会 毎年「市長と語る会」開催
◆〈東京・千代田区県人会〉	企業関係者が多い. 戦後発足現在会員約600人	最近の地価高騰により会員が減少 県人会の集まり（約40人参加）
◆〈東京・荒川区県人会〉	戦後発足. 現在会員約100人	総会・新年会（県出身者が経営する飲食店で）地元の情報収集に力を注ぐ.
◆〈東京・世田谷区県人会〉	会員3500世帯. 同区制が始まった1932年ごろに創立.	戦時中は県人会を通じて木炭・野菜などを県内から共同購入. 月1回の「慶弔会」（祝い事, 葬式等の連絡交換）,『無尽会』（会員が互いに助け合う）など活発に活動. 毎秋に各地へ旅行. 総会（約160人参加, 記録映画の上映）・懇親会（福引が

県名　会　名	メンバー構成・特色	行事・活動内容等
		目玉） 一泊旅行（9/27～28．群馬県上信越高原国立公園．約40人参加）
◆〈東京・品川区県人会〉		会員増加のための役員作りで活性化を図る． 総会（出席者倍増80人）
◆久那土郷友会	下部町に吸収された旧久那土村出身者．東京での久那土小学校同窓会をきっかけにして，戦後正式発足．	毎年2月初旬に新年会（空くじなしの抽選会が名物）
◆京浜鰍沢会	南巨摩郡鰍沢町出身者． 1955年創立．現在会員約500人	総会（毎回地元の著名人が勢揃い，今回は約80人出席．創立40周年を記念し，地元の「桜まつり」に参加決定．） 新年会（町長含め約100人が参加）
◆〈東京・中野区県人会〉	戦後発足．'93創立45周年．	昨年11月，1泊旅行実施． 総会・懇親会（記録映画の上映，日舞，県出身歌手の歌，福引など） 昨年創立45周年を記念し，名簿，オリジナルテレホンカードを作成．
◆〈県人会八王子支部〉		信玄と謙信の合戦の場「川中島」を訪れる．
◆〈東京・杉並区県人会〉		毎月4日例会を兼ね，誕生会（20年以上続く） 総会・懇親会（約130人出席）
◆〈東京・中央区県人会〉	昼間人口は多いが，居住者の少ないのが悩み．	約50人の「無心会」毎月会合開催（互いに助けあう無尽の心を無心で楽しもうと約40年前に結成）．総会を兼ね，旅行会（御坂町の温泉約20人参加）
◆首都圏増穂会	南巨摩郡増穂町． 現在会員約150人	会員のひとりが故郷に万葉集の歌碑を寄付し続ける．総会（14回目，例年審議の後講演会） 懇親会（167人参加）
◆山梨農林東京圏同窓会	昭和30年代に発足	総会（約50人出席）．5年前に同窓生千人の名簿を作成．以来毎年総会を開催．
◆〈東京・目黒区県人会〉		婦人部長が世話好きで親しまれる． 総会（約50人出席）「政治色を排除」と政治家の招待を止める．福引が目玉．
◆東京・甲斐路八代会	東八代郡八代町出身者． 1985年発足．現在会員900人	春の総会，秋の郷土訪問が90年以来中断． 4年ぶりに総会（元日活俳優含め220人出席）
◆東京・南部会	南巨摩郡南部町出身者．南部藩主が1191年に現青森県南部町に城を移したことで，会員同士は「南部の本家」として結束． 1961年に約10人で発	総会． 「南部の火祭り」参加（8/15．毎年50人が招待） ゴルフコンペ開催． 南部藩の歴史を訪ねる旅行．

県名　会　名	メンバー構成・特色	行事・活動内容等
◆〈横浜市県人会〉	足. 現在会員約2800人. 関東大震災で被害を受けた県出身の生糸生産業者らが「復興のため力を合わせよう」と設立.	総会（約200人出席）・懇親会
◆東京・大泉会	来年創立70周年. 北巨摩郡大泉村出身者.	故郷訪問（約20人参加） 村との交流会を東京と地元で開催. 地元の「サラダ王国祭り」（10月）約20人参加予定.
◆在京早川会	南巨摩郡早川町出身者	「南部の火祭り」に100人が参加.（同会のために特別テントが用意され、町長も歓迎）
〈長野〉		
◆〈東京・台東区県人会〉		同会サークルの中でも人気が高い「みすずカラオケ愛好会」. 愛好会ができ女性や若者の会員が増えた.（約20～30人） ゴルフ競技会に40人が参加（今年で20回目） ゴルフ同好会で毎月1回初心者にレッスン
◆上田郷友会	在京の上田市出身者でつくる. 上田市出身の医学生の集まりを母体に1885年に初の会報を発行したのが会の始まり. 来年創立110周年	毎月欠かさず例会を開催.「生涯学習の精神を貫く」東京と地元で別々に部会を持ち, 有識者を呼んで講演を開く. 講演の内容は毎月発行の会報で紹介. 例会に約20人出席. 趣味などの講演をして教養を高める.
◆〈東京江戸川区県人会〉		会の野球チーム「江信アルプス」を1975年創設. 江＝江戸川, 信＝信州. 地域リーグの一部昇格を目指す.
◆信陽舎	県出身の男子大学生の為の学生寮（武蔵野市）1927年創設.	武蔵野市の老人ホームとの共同施設として生まれ変わるが, 管轄の違い（厚生省, 文部省）によって交流しにくい構造に. 「信陽舎」のOB会, 35人が集まる.
◆〈東京・文京区県人会〉		県人会連合会総会で詩吟の伴奏をプロ級の会員が尺八演奏. 会員の成田空港内病院設立の署名運動に県人会も全面的協力. 署名活動に信州出身の本郷ロータリークラブ会長が協力.
◆〈東京・小金井県人会〉		「お花見の集い」参加者は昨年より減って25人程度だったが, 横断幕「小金井県人会」が功を奏し, 飛入り参加も有り.
◆〈東京板橋区県人会〉	大正時代に創立	長野冬季オリンピックに会員が小銭の寄付を続ける. 1泊2日の恒例の信州旅行に36人の参加. 最後は「信州の国」を斉唱.
◆〈八王子県人会〉	八王子市制定の1917	毎年, 同市内のデパートで物産展を開催.

県名　会　名	メンバー構成・特色	行事・活動内容等
	年ごろに創立．大正時代に諏訪市を本社とする製糸工場の同市への進出にともない，県内から同市の工場へ就職する人が相次いだ．それにより同市の信州人口が増え，行政や教育界を牛耳った時期もあり，県人会活動は活発．約600人の会員．	新人会員募集コーナーが黒山の人だかり． 今年度総会に75人出席．初めて市長を招待． 懇親会は故郷の歌やカラオケ．三郷村名産の乾燥もちがおみやげ．
◆〈東京・町田市県人会〉	約1000人の会員	同市民さくらまつりで恒例の「信州の物産展」開催． 川上村の「山菜まつり」に約50人が参加予定 同村には市の保養施設があるため．今年で5回目．
◆〈市原信濃会〉	千葉県市原市在住者で構成．1983年，同市を第2の故郷としている24人のメンバーで創立．現在80人「浅草ノリ」産地の同市へ諏訪地方から出稼ぎに．定住者も多く，現在ノリ問屋は信州人子孫が多い	毎年3月の総会でふるさとから「カイコのサナギ」「ジバチの幼虫」を取り寄せ持ちよる．
◆〈埼玉・川口県人会〉	1976年3月設立． 徐々に会員が増え，現在約250人．	総会で議案審議のあと懇親会．（約140人参加）郷土料理，歌，踊り，チャリティバザー（市社会福祉協議会へ寄付）などを行う． 日帰り旅行（千葉県御宿）に46人参加．
◆〈東京多摩県人会〉	同郷の人が互いに助け合い豊かな暮らしを築こうと発会．今年12年目．現在約150人が加入． 多摩ニュータウンで，信州人として新しい街づくりに協力していこうというのがモット一．	毎年1回東京周辺の行楽地へ日帰りバス旅行実施．
◆〈埼玉・浦和県人会〉		浦和市民会館での総会に約80人が参加．健康管理についての講演（高齢者が多いので）と懇親会．文化展も同時開催． ボウリング大会（約20年前から開催．30代から70代の25人が参加）
◆〈中野区県人会〉	大正時代末期，区が誕生する以前の豊多摩郡	当時は総会や新年会だけだったが，郷土訪問旅行を昨年までに16回実施．

県名　会　名	メンバー構成・特色	行事・活動内容等
◆〈足立区県人信濃会〉	中野町の頃に設立．当時会員300人 戦後できたが，マンネリ化のため休眠状態．日頃の支部活動は行っていたので各支部の有志が集まり1980年1月に現信濃会が発足．	会報の発行計画（世代交代のきっかけに）
◆関東豊丘会	首都圏在住の下伊那郡豊丘村出身者．1960年設立，現在会員1200人．	毎年9月の総会には約200人が参加． 会員相互の親睦のために半年前から毎月1～2回の役員会を開催して準備．役員には割安の1泊旅行．今年度総会で発足以来続く出席者への五平餅の配布．カラオケ大会も同時開催．
◆〈県人会連合会青年部・婦人部〉	来年創立25周年	東京で総会・懇親会．約200人参加．県歌斉唱 毎年県出身の国会議員出席． 婦人部は「江戸東京博物館見学とちゃんこなべを賞味する会」を開き，57人が参加．
◆〈鎌倉市県人会〉	今年設立6年目．1950年代に「鎌倉県人会」があったが休眠状態，'88年に組織を改める．市内に約1000人いる県出身者の2割近い約190人が加入．	年に2回の会報（会員相互の情報交換に）総会・懇親会7/3に約70人参加（お土産は定番の「信州みそ」）
◆〈在仏県人会〉	このほどパリに誕生．現在会員約50人	今年初め，訪欧中の羽田首相がパリを訪れた際，夫人を招きお茶漬パーティ．
◆〈東京・品川区県人会〉	1933年設立，現在約160人の会員	毎月1回は役員会 郷土訪問の親睦旅行（1935年から毎年実施）
◆信州とよの会	上水内郡豊野町出身の首都圏在住者．一昨年町出身者約150人が会合を開いて「豊野町町人会設立準備委員会」を設立，その後発会に向け数回の委員会を開催	目的は親睦を深めることと，町の将来の発展に向け都内在住者としての意見や首都圏の情報を町に寄せること．発会当日には町長や町会議長ら15人の町関係者が訪れる予定． 県人会連合会会議室で発会後初の役員会．16人出席（町の企画調整課長ら2人の職員も）設立総会の決算報告，役員を4つの分科会にすること，町の広報紙の会員配布について検討．
◆〈埼玉・朝霞市長野県人会〉		例年は郷土訪問だが，今年は「海を見たい」という声に西伊豆へ一泊旅行． 欧州旅行に向け大きな横断幕を作成．（長野冬季五輪PRのため） 背中に「信州」とある法被を着用して「市民祭り」に参加．（信州そばとみその露店） 今春発足の釣り部会が2回目の釣り大会
◆〈長野県人会連合会〉		総会で行事計画決定報告（約2000人参加の秋季大会「ふるさと信州の集い」日程等），県人会オリジナルカレンダ

県名　会　名	メンバー構成・特色	行事・活動内容等
		ー販売PR，羽田首相夫妻の特別招待．（約400人参加．首相夫人のスピーチ，アトラクション，「信濃の国」斉唱） 来年2月に新年会． 毎月発行の機関紙に鎌倉の文化財紹介． 合同役員会に約100人が出席予定．（連合会秋季大会の2000人参加目標への協力，物産店の参加の報告，各県人役員から活動結果や機関紙の購買状況の報告などの予定．） 同会発行のカレンダーの購入者を募る．（毎年2000部が購入される人気）
◆〈東京・清瀬市長野県人会〉	1986年5月にわずか20人で発足現在は200人を越える．40代から50代の人達が中心に活動．	毎年10月の市民祭りには信州の物産展． 売上の一部は市を通じて福祉関係に寄付
◆〈千葉・松戸市長野県人会〉		同市の秋祭り「松戸祭り」に各県の県人会が参加する道を開いた．（14年前） 県人会を通じて信州を宣伝する旅行実施 「松戸まつり」に物産展出店予定．
◆〈東京・小平市県人会〉	1972年に結成「和をもって尊しとなす」がモットー．	会合では必ず「信濃の国」を斉唱． 総会では運営費のためオークション開催． 毎回75才以上のお年寄りに特注座布団のプレゼント．
◆〈埼玉・戸田市県人会〉	会員150人	2カ月に1回のペースで行事（春の総会，郷土訪問旅行，年4回のゴルフ大会，青年部主催による花見，バーベキュー大会等） 旅行は1977年ごろから毎年6月に実施．
◆東京上郷会	昨年飯田市と合併した上郷地区の会．	毎月，会員と故郷の人々の身近な話題を満載する会報を発行．
◆〈東京・多摩地区の清瀬・小平・田無・東久留米県人会〉		毎年持ち回りで役員の懇親会を開催．（約80人の参加．太鼓，カラオケ大会など）
◆〈東京・墨田県人会〉		恒例の懇親会に約40人参加（会員相互の親睦を深め，総会への出席者を増やそうと1986年7月から奇数月に開催．カラオケ大会，ボウリング大会等も実施．）
◆東京・東部町の会	小県郡東部町．9年前に町制30周年を記念して結成．現在首都圏在住者など約400人．	30人が総会と懇親旅行会を兼ね，同町の奈良原高原へ．
◆〈埼玉浦和・川口・鳩ケ谷市県人会〉		恒例の3市連合旅行会で房総半島へ．43人参加（今年で10回目，今年の幹事は浦和市）信濃路への温泉旅行に92人が参加．
◆〈東京・大田区県人会〉		恒例一泊旅行（8/26～27．岐阜県下呂温泉と高山市．85人参加）
◆〈東京・世田谷区県人会〉		郷土訪問計画（10/2～3）
◆〈東京・北区県人会〉		春は花見を兼ね日帰り旅行 秋は一泊旅行（例年40人前後参加）